

# 公益財団法人国際通貨研究所

## 平成 27 年度事業報告書

当研究所は、国際金融、国際通貨を専門とする研究機関として、これまでに培ってきた広範な知識と経験を活かし、官公庁や民間機関などからの委託調査を通じた国際社会への貢献、および世界のシンクタンクやエコノミストらとの知的な情報交流を追求すべく、平成 27 年度（平成 27 年 4 月 1 日より平成 28 年 3 月 31 日まで）の事業として、以下の諸活動を実施した。

### 1、調査研究活動

国際通貨、国際金融に関する諸問題について以下のテーマを中心に、自主調査、委嘱調査の方法により調査研究を行い、様々なメディアを通じてその成果を対外的に公表した。

#### **(1) ドル、ユーロ、円などの主要ハードカレンシーの相場に影響を与えるマクロ経済の調査分析**

日本の経常黒字、ユーロ圏の南欧リスク分析、英国・ギリシャのユーロ残留問題、購買力平価によるドル円相場分析、人口問題と世界経済等、先進主要国に関するニーズの高いテーマを取り上げ、レポート作成や情報交流を行った。

#### **(2) 人民元を代表とするエマージング通貨を取り巻く金融、経済、制度、政治の分析**

中国経済リスクの評価、習近平政権の経済改革、SDRの人民元採用、AIIBの状況、人民元の国際化等、中国の経済金融動向に関するニーズの高い個別テーマを取り上げ、レポート作成や情報交流を行った。

#### **(3) アジアを筆頭にエマージングの個々の国や地域横断的な金融発展**

ロシア、ブラジル、トルコ、カザフスタン、パキスタン、ナイジェリア、アンゴラ、モンゴル、南アフリカなどのカントリーリスクの状況をとりまとめたほか、新興国の債券市場調査を実施した。

### 2、情報交換・国際交流活動

調査研究に関連するテーマについて国内外の有識者との意見交換や政策提言を目的としてシンポジウムを開催した。また、内外関係当局及び研究機関との間で情報交換、交流を行った。

#### **(1) シンポジウム・セミナーの開催**

2 月に経団連会館において恒例の国際金融シンポジウムを開催した。「東アジアの協調的発展～その展望と課題」とのタイトルの下、パネリストには、程永華駐日中国大使、司空壹元韓国財務大臣を招き、日中韓のアジア 3 国がいかに協調して東アジアにおいて主導的な役割を発揮していくべきかを議論した。400 名程度の聴衆を前に率直な議論が展開された。

#### **(2) 外部との交流**

##### ▶ 海外のエコノミストなどとの交流

海外のエコノミストらの来訪をとらえ、それぞれの専門分野において意見交換を行い、交流を深めた。以下の小規模な講演会を開催。

- ✓ ドイツのライプツィヒ大学のギュンター・シュナブル教授の来日の機会を利用し、「中国の為替相場制度と金融抑圧：国際通貨としての人民元の課題」と題する講演会を開催。
  - ✓ ユーラシアグループのシニア・アナリストであるスコット・シーマン氏の来日の機会を利用し、「海外投資家は日本の何を気にしているか」と題する講演会を開催。
  - ✓ 三菱UFJリサーチ&コンサルティングの尾木蔵人氏を招き「世界で進むIoT・新産業革命への取り組みと日本の未来」と題する講演会を開催。
  - ✓ 当研究所経済調査部の武田紀久子上席研究員による「日銀は Game Changer か ～日本経済の見通しと円相場の行方～」と題する講演会を開催。
- 海外大学・大学院からのインターン受け入れ  
米スタンフォード大学と米ジョンス・ホプキンス大学大学院のそれぞれから、計2名の学生をインターンとして受け入れた。

### **3、広報・普及啓発活動**

調査研究活動の成果の社会への還元、国際経済・国際金融に関する知識の普及啓発を目的として、ホームページを通じた対外広報、大学や外部機関での講義・講演、専門誌への寄稿、などを実施した。

#### **(1) ホームページやメールマガジンによる情報発信**

ホームページには平成27年4月より当研究所の研究員による短編コラム「IIMAの目」の掲載を開始。折々の話題性のあるトピックスを取り上げて週1~2回のペースで発行、年間では77本となった。この他、年間でNewsletter 28本、国際金融トピックス14本、調査研究論文1本を掲載し、調査研究の成果を積極的に対外発信した。

また、購買力平価や、当研究所が開発したIIMA Global Market Volatility Indexについても引き続きホームページ上での掲載を行った。

新たに開始した「IIMAの目」を中心とした社会的関心の高いテーマに関するレポートや、相場が大きく変動した購買力平価、IIMA Global Market Volatility Indexに多くのアクセスを得、各レポートのアクセス数は高水準で推移した。また、メールマガジンの登録数は引き続き2,000名以上で推移した。

#### **(2) 教育機関などでの講義・講演**

早稲田大学、南山大学、上智大学、清泉女子大学、埼玉大学、拓殖大学、学習院女子大学において講義を実施した。

#### **(3) 寄稿・インタビューなど**

書籍「国際金融の世界（佐久間浩司著、日経文庫）」の刊行、日本経済新聞、「国際金融」、「週刊エコノミスト」への寄稿や新聞・雑誌等メディアの取材の受け入れなどを行った。

以上